

農作物技術情報 第3号の要約

平成22年 5月27日発行
岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部

今後2週間は低温の予報。特に今週末は極端な低温が予想されるので管理に注意。

作目	技術の要約
水稲	<p>生育状況: 田植えは平年より3日の遅れ。概ね適期内に作業は終わる見込み。</p> <p>低温対策: 低温時は深水で保温に努め、好天時は浅水で水温・地温を高め、分けつの発生を促進する。</p> <p>その他</p> <ul style="list-style-type: none">○雑草防除: 除草剤効果発揮のため、適期・適量散布と田面を露出させない水管理に努める。○病虫害防除: 取り置き苗はいもち病の伝染源。植え直しが終了したら土中埋没等で処分を。
畑作物	<p>生育状況: 小麦の生育は県中部で4、5日程度遅れている。県南部は開花が始まっている。</p> <p>低温対策: 小麦赤かび病の防除適期は開花期だが、低温が続くと開花が遅れることが予想されるので防除適期を逃さないよう注意。</p> <p>その他</p> <p>小麦: 収穫作業に備え、乾燥施設との連携や収穫機械の整備などを行い、万全の体制を整える。</p> <p>大豆: 排水対策・耕起・砕土などを丁寧に行い、土壌条件を整える。種子消毒・播種・除草剤の散布などは計画的に実施し、初期生育を確保する。</p>
野菜	<p>生育状況: 施設果菜類は、半促成作型のきゅうり、トマトで出荷開始時期が7日程度遅れており、草勢低下が懸念。また、普通作型では、ほ場間で生育に差がみられる。</p> <p>露地果菜類は、育苗期間中の低温経過により、定植の遅れあり。</p> <p>雨よけほうれんそうは生育遅れの圃場あり。レタス、キャベツでは生育7日程度の遅れ。</p> <p>低温対策</p> <ul style="list-style-type: none">○施設果菜類では、温湿度管理を徹底し、生育に応じた早めの作業で草勢維持に努める。○露地果菜類では、活着を促進し初期生育を良好にするため、土壌水分や地温を確保するとともに、露地きゅうりではポリキャップなどを利用して防風、保温対策に努める。○明け方の冷え込みが予想されるときは夕方早めにハウスを閉め、必要に応じて補助暖房等を活用する。○灌水の必要がある場合、日中の温度が高い時間帯に行い、適湿を保つ。
花き	<p>生育状況: りんどうは平年より一週間程度遅れの生育。8月咲小ぎくは、摘心後の側枝の伸長も遅れ気味となり、収穫時の草丈不足が懸念される。</p> <p>低温対策</p> <ul style="list-style-type: none">○【りんどう】畦間かん水や生育に応じた追肥により生育の確保に努める。定植は、天候を見ながら早めに計画的に進める。病虫害防除は、葉枯病の予防散布、リンドウホソハマキ、ハダニ類の適期防除を徹底。○【小ぎく】摘心後の整枝の適期実施、必要に応じてかん水、追肥を行う。病虫害防除では、特に白さび病の発生に注意する
果樹	<p>生育状況: りんごの開花は5～7日程度の遅れ、ぶどうの発芽、展葉は3～5日遅れている。</p> <p>りんご: 生育の遅れから小玉果が懸念されるため、早めの摘果を。</p> <p>ぶどう: 開花が遅くなる可能性も、開花期前後の管理を徹底し、結実確保を図る。</p>
畜産	<p>生育状況: 牧草の生育は遅れているが、オーチャードグラスの出穂は平年並。</p> <p>牧草: 増収を期待した遅刈りは、栄養価が低下する。刈取り後の生育にも悪影響。適期刈取りと適切な水分による調製を実施。</p> <p>飼料用トウモロコシ: 除草剤の生育期処理を適期に実施。強害外来雑草の被害拡大防止のため対策実施。</p> <p>口蹄疫: 牛や豚などの偶蹄類の家畜を飼養されている農家では、衛生対策を励行。</p> <p>低温対策: 天候不順時はラップサイレージ主体で効率的な調製を図る。</p>

詳細については「いわてアグリベンチャーネット」をご覧ください。 <http://i-agri.net> (「いわてアグリ」と検索すると上位に表示されます)

- 農薬適正使用: 使用前に必ずラベルを確認し、使用基準の厳守と飛散防止を心がけてください。
- 農作業安全: 事故のないよう、農作業安全に十分留意してください。

次号は平成22年6月29日発行の予定です

注意！

■この記事は発行年月日時点の内容のまま公開していますので、ご覧になった時点の法規制(農業使用基準等)等に適合しなくなった内容を含む可能性がありますから、利用にあたってはご注意ください。

農作物技術情報 第3号 水稻

発行日 平成22年 5月27日
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
編集 中央農業改良普及センター 県域普及グループ (電話 0197-68-4435)

携帯電話用QRコード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
パソコンからは「<http://i-agri.net>」 携帯電話からは「<http://i-agri.net/agri/i/>」

今後2週間程度低温が予想されています。以下に留意して農作物の管理に努めましょう。

- ◆ 低温時は深水として保温に努め、好天時は浅水管理で水温・地温を高め、分けつの発生を促進します。
- ◆ まだ田植えを終えていない場合は、天候の良い日を選んで速やかに田植えを終えます。

その他のポイント

- ◆ 目標とする茎数を確保したら、すみやかに中干しを実施しましょう。
- ◆ 水田除草剤は適期に十分な湛水深で処理しましょう。
- ◆ 補植用取置苗はいもち病が発生しやすいので、圃場内に放置せず直ちに処分しましょう。
- ◆ 斑点米カメムシ類(アカスジカスミカメ)の孵化盛期に合わせて地域一斉の草刈りを実施します。
- ◆ 異品種の混入を防止するため、株間や条間に生育しているイネは抜き取ってください。
- ◆ 農薬使用基準の厳守と飛散防止、農作業の安全に十分留意してください。

1 生育概況

田植えの盛期(50%終了)は5月18日、終期(90%終了)は5月23日と平年より3日遅れとなっていますが、各地域で概ね適期内に作業が終わる見込みです。

北上川下流及び東部では、田植え最盛期以降は好天に経過しており、活着は概ね良好です。北上川上流及び北部では、田植後低温になっているので、活着までの深水管理が特に重要です。

表1 県内農業地帯別田植状況(各農業改良普及センター調べ)

地帯名	田植え時期(月/日)											
	本年(月/日)			平年			平年差(日)			前年		
	始期	盛期	終期	始期	盛期	終期	始期	盛期	終期	始期	盛期	終期
北上川上流	5/17	(5/21)	(5/26)	5/15	5/18	5/23	2	(3)	(3)	5/14	5/20	5/25
北上川下流	5/12	5/16	(5/22)	5/9	5/13	5/18	3	3	(4)	5/8	5/12	5/19
東部	5/12	5/16	5/23	5/10	5/14	5/20	2	2	3	5/9	5/14	5/20
北部	5/21	(5/24)	(5/29)	5/18	5/22	5/26	3	(2)	(3)	5/19	5/23	5/26
県全体	5/14	(5/18)	(5/23)	5/11	5/15	5/20	3	(3)	(3)	5/10	5/15	5/21

注) 1, 平年値は10か年(平成12~21年)の平均値, 始期:10%終了、盛期:50%終了、終期:90%終了
2, 括弧内の数値は未確定市町村があるため推定値。

表2 各地の田植え盛期とその後5日間の気象値

市町村	田植盛期	アメダス地点	平均気温(°C)	
			本年	平年差
紫波町	5月20日	紫波	16.8	3.4
北上市	5月17日	北上	17.6	3.3
奥州市	5月14日	江刺	14.1	0.2
一関市	5月16日	一関	14.9	1.0

注) 各地の田植え盛期後5日間の平均値

2 水管理（分けつの促進と中干しの実施）

仙台管区気象台の3か月予報によれば(5月25日発表)、6月の気温は平年並みか低く、曇りや雨の日が多い見込みです。低温時は深水として保温に努め、好天時は浅水管理で分けつの発生を促進してください。

(1) 分けつの促進

好天時は浅水とし、かけ流しをさけて水田水温や地温を高めて分けつの発生を促進してください。

一方、最高気温が15℃以下となるような低温時には、葉先が出る程度の深水として水稻を低温から保護してください。特に、県北部など田植えを終えて間もないところでは、水稻の活着・初期生育を促すよう、きめ細かな水管理につとめてください。

冷水のかかる水田では、ポリチューブなどを利用し、積極的に水温の上昇をはかりましょう。

生わら施用田では、気温の上昇とともに土中のわらが分解し、酸素不足となります。この対策として雑草防除をかねて中耕し、ガス抜きします。また、水持ちの良い水田では一時落水し、新しい水を入れ換えて分解過程生成物を除去する方法もあります。

(2) 中干しの実施

目標とする茎数(目標とする穂数とほぼ同数)を確保したあとは、以下により中干しを実施しましょう。中干しを行うことにより、土壌の還元化を和らげ、根の伸長促進と健全化をはかるとともに、無効分けつの発生を抑制します。

(ア) 中干しの期間はおよそ7～10日くらいとし、田面に小さな亀裂が生じ田面を軽く踏んで足跡がつく程度を目安に行う。

(イ) かん排水を容易にするため、中干しと同時に作溝を行うのが望ましい。

(ウ) 中干し後、一度に深水にすると酸素欠乏になり根に障害が出ることがあるので、中干し直後は間断かんがいとし、その後常時湛水とする。その後は異常低温でない限り、幼穂形成期までは間断かんがいとす。

3 効果的な除草剤の使用

ノビエやホタルイなどの水田雑草はほぼ平年並みに発生が始まっています。

これから除草剤の散布を行うところでは、除草剤の効果を十分に発揮させるため、以下の点に留意して下さい。

- (1) 適期処理：雑草の葉齢を見極め、適期に処理すること。
- (2) 水管理：処理後3～4日間は水の移動をしないこと(止水期間は1週間程度)、この間に田面が露出しないことが重要となる。そのため、十分な湛水深を確保した上で処理すること。
- (3) 使用する農薬のラベルを必ず確認して、使用基準を遵守すること。



写真1 2葉期のノビエ



写真2 2葉期のホタルイ

(通常の初中期一発処理剤はこの頃までに処理すれば十分な効果が得られます。)

4 病虫害防除対策

(1) 葉いもち（補植用取置苗の早期処分の徹底）

補植用の取置き苗はいもち病の伝染源となります。圃場内に放置している場合には、遅くとも6月上旬までに必ず処分してください。

畦畔にあげておいたままのものや、裏返しにされた苗でも条件によっては伝染源となり得るので、必ず土の中に埋め込むなどして処分してください。

処分する時によく観察していもち病が発病していないか確認し、発病していた場合は周囲の本田に伝染していないか注意してください。

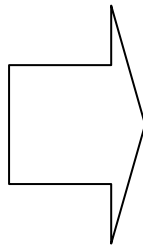
葉いもち予防剤の施用時期は6月20日～25日が適期です。例年、葉いもちが早期に発生する地域ではこれより7日程度早めに施用しましょう。

なお、ストロビルリン系薬剤（嵐剤、オリブライト剤）は耐性菌の発生リスクが高いため、嵐剤を箱施用した場合は、オリブライト剤を本田で使用しないでください。

葉いもち予防剤を施用する前や、箱施用剤を使用した場合も圃場をよく観察して、発生が見られた場合には、茎葉散布を検討してください。



取置苗を放置すると



いもち病の伝染源となる

写真3 補植用取置苗はいもち病の伝染源

(2) ばか苗病

県中南部を中心に育苗期に広く発生がみられています。発生がみられた場合には、株ごと抜き取って処分してください。特に、水稻の採種圃周辺の圃場でばか苗病が発生すると、採種圃の水稻に感染する恐れがありますので注意してください。

(3) 斑点米カメムシ対策（発生源対策）

斑点米発生の原因となるアカスジカスミカメは、イタリアンライグラス等のイネ科牧草や雑草の穂などを吸汁して繁殖します。水稻が出穂する前は、これらの植物が生育している畦畔や休耕田等で増殖しますので、カメムシ類の増殖を防ぐため、発生源となる畦畔や休耕田等のイネ科牧草・雑草は出穂開花する前に刈り取ることが重要となります。

アカスジカスミカメは卵で越冬しますが、越冬卵の孵化盛期の前後5日間に畦畔等の草刈りを行うと、越冬世代幼虫の密度低減に効果的であることが明らかとなっています（県農業研究センター平成19年度研究成果）。

アカスジカスミカメにより斑点米の被害が問題となっている地域では、越冬卵の孵化盛期の前後5日間に畦畔等の草刈りを地域一斉に実施してください。

なお、県内各地のアカスジカスミカメ越冬世代幼虫の孵化盛期については、県病虫害防除所発行の病虫害発生予察情報 発生予報 第3号（平成22年5月31日発行予定）を参考にしてください。



写真4 畦畔に群生するイタリアンライグラス
（イタリアンライグラスはカメムシの増殖源となる）



写真5 斑点米の発生原因となるアカスジカスミカメ

5 異品種の混入防止

現在、全国的に異品種の混入が問題で、DNAの解析により米一粒からでも品種の判定ができるようになっています。

異品種が混入した米を出荷すると、産地のイメージを損ねることになります。

株間や条間などに生育している素性のはっきりしないような水稻があった場合には抜き取るなど、異品種混入を防ぐ管理に心掛けましょう。

6 農薬の安全使用

ポジティブリスト制が施行され、残留農薬基準の規制が強化されています。基準値を超えた農薬が残留した農作物の流通は禁止されます。周辺作物へのドリフト（農薬飛散）に注意しましょう。

春の農作業安全月間実施中！

農作業 慣れと油断が 落とし穴 初心を忘れず 安全第一

**6月1日～8月31日は
農薬危被害防止運動期間です**

- 近隣住民・周辺環境に配慮しましょう。
- 農薬散布準備、作業中・後の事故に注意しましょう。
- 農薬の保管・管理は適切にしましょう

次号は6月29日（火）発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。発行時点での最新情報に基づき作成しております。発行日を確認のうえ、必ず最新情報をご利用下さい。

注意！

■この記事は発行年月日時点の内容のまま公開していますので、ご覧になった時点の法規制(農業使用基準等)等に適合しなくなった内容を含む可能性がありますから、利用にあたってはご注意ください。

農作物技術情報 第3号 畑作物

発行日 平成22年 5月27日
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
編集 中央農業改良普及センター 県域普及グループ (電話 0197-68-4435)

携帯電話用QRコード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
パソコンからは「<http://i-agri.net>」 携帯電話からは「<http://i-agri.net/agri/i/>」

今後2週間程度低温が予想されています。以下に留意して農作物の管理に努めましょう。

赤かび病の防除適期は開花期ですが、低温が続くと開花が遅れることが予想されます。防除適期を逃さないよう注意しましょう。

小麦：小麦の生育は県央部で4、5日程度遅れています。まもなく開花期を迎え、赤かび病の防除適期になります。適期を逃さず薬剤防除を行いましょう。

収穫作業に備え、乾燥施設との連携や収穫機械の整備などを行い、万全の体制で望みましょう。

大豆：排水対策・耕起・砕土などを丁寧に行い、土壌条件を整えましょう。種子消毒・播種・除草剤の散布などは計画的に実施し、初期生育を確保しましょう。

1 小麦

(1) 赤かび病の防除

赤かび病の薬剤防除は、品種や天候によって2回目、3回目の散布が必要になります。下図を参考に防除を行いましょう。

ア 赤かび病防除の考え方

品種	開花期 (1回目散布)	1回目散布の 7~10日後	2回目散布の 7~10日後
ナンブコムギ	◎(必須)	○(曇雨天続く時)	—
ゆきちから ネバリゴシ コユキコムギ キタカミコムギ	◎(必須)	◎(必須)	○(曇雨天続く時)

イ 穂が緑色のうちには場を見回り、赤かび病にかかっているものを抜き取りましょう。

ウ 多発した場合は、刈り取りを別とし、健全粒に赤かび粒が混入しないようにしましょう。

(2) 乾燥・調製施設との連携

ア 小麦の収穫時期は梅雨と重なるため、実際の刈取り期間はかなり短くなります。また、刈取時に雨の日が続く、刈取りが遅れると穂発芽や赤かび粒も発生しやすくなります。適期内に収穫できるよう機械等の点検整備をあらかじめ行いましょう。

イ 施設を利用して乾燥・調製を行う場合は、施設側との連携を深め、計画的に収穫作業ができるよう、収穫・受け入れ体制を今から十分に整えておきましょう。

2 大豆

(1) 排水対策の実施

- ア 排水不良は発芽不良を誘発するだけでなく、根粒の着生を抑制します。
- イ 播種前に弾丸暗きょやサブソイラ等を用いて排水対策を講じましょう。特に転作田では必ず畦畔の内側に40～50cmの溝（額縁明きょ）をつくり、ほ場水尻の排水口につなぎましょう。

(2) 耕起・砕土・整地

- ア 砕土をできるだけ丁寧に行いましょう。仕上がりが不均一だと、除草剤の効果が低下したり、薬害の誘発、播種精度の低下に伴う発芽不良などの原因となります。
- イ 砕土はよく乾いたほ場から行いましょう。
- ウ 耕うん・砕土後（特にロータリ耕後）は土壌が水分を含みやすく、乾きにくくなります。播種スケジュールと天候の動きをみながら、柔軟に作業日程を立てましょう。
耕うん後に降雨があると土壌条件が整わず播種が遅れることがあります。オペレータが確保できれば、砕土作業を追いかけるように、播種、除草剤散布を同日に行うのが理想的です。

(3) 播種作業・・・栽植密度を確保するため、次の点に留意して作業を

ア 播種適期

概ね表1のとおりです。

表1 大豆の品種別地帯別播種適期

早晩生	品 種 名	県北部	県中部	県南部
極早生	ユキホマレ	6/ 5～6/25	6/20～7/10	7/ 1～7/20
晩生	ナンブシロメ・スズカリ	5/20～5/31	5/15～6/ 5	6/ 1～6/20
晩生	リュウホウ	—	5/15～6/ 5	6/ 1～6/20
中生	すずほのか（標播）	5/20～5/25	5/15～5/31	6/ 1～6/15
	（晩播）	—	6/ 1～6/5	6/16～6/20
晩生	コスズ	5/20～5/25	5/15～5/31	6/ 1～6/15
中生	南部黒平	5/20～5/31	5/15～5/31	6/ 1～6/20
晩生	青丸くん	5/20～5/31	5/15～6/ 5	6/ 1～6/20
極晩生	岩手みどり、ミヤギシロメ	—	—	5/20～6/ 5

播種作業は適期内に行いましょう。ただし、圃場が滞水するような条件や播種前後に大雨が予想されるときは作業を控えましょう。

逆に乾燥しすぎた土壌でも発芽障害となるので、しばらく降雨が見込めない場合には播種深をやや深くしましょう。

イ 播種様式

畦幅は、その後管理する機械に合わせて設定してください。品種別の栽植密度は表2のとおりです。

表2 普通大豆の品種別栽植密度と播種量

項目	ユキホマレ	ナンブシロメ	スズカリ	リュウホウ	青丸くん
栽植密度(本/10a)	2万～3万	1万～1万2千	1万～1万2千	7千～1万5千	1万～1万2千
畦間×株間(cm) *	70×14～9 30×30～22	70×30～24	70×30～24	70×40～20	70×30～24
播種量(kg/10a)	6～9	2. 5～3	3～3. 5	2. 5～5	2. 5～3

*)畦間を70 cm、1株2本立てとした場合を示した。

「ユキホマレ」の麦後栽培では畦間30cm前後の狭畦密植とする。

「リュウホウ」は、播種期により栽植密度を調整する（晩播ほど密植とする）。

ウ 播種量

播種量は種子の大きさを見てから決めましょう。多すぎても少なすぎても良いことはありません。主な品種の種子の大きさは次の通りです。

<参考> 22年度播種用種子

品種	区分	百粒重 (g/100粒)	必要種子量 (kg/10a)
ナンブシロメ	中粒	27.2	3.3kg 程度
スズカリ	大粒	33.9	4.1kg 程度
スズカリ	中粒	27.2	3.3kg 程度
リュウホウ	大粒	36.5	4.4kg 程度
コスズ	小粒	10.3	1.2kg 程度
コスズ	極小粒	8.3	1.0kg 程度
すずほのか	小粒	12.1	1.4kg 程度
すずほのか	極小粒	8.7	1.0kg 程度

※ ナンブシロメ・スズカリの適正な栽植密度は10aあたり10,000～12,000本、リュウホウの適正な栽植密度は10aあたり7,000～15,000本です。

※ 必要種子量は10aあたり12,000本、出芽率100%の場合で計算していますので、出芽率が80%程度となっても、10,000本近く本数は確保できる種子量です。

エ 病虫害防除・・・種子消毒を徹底

紫斑病やタネバエ防除のため、粉衣用ノマート 25 (対象：タネバエ) やキヒゲン R-2 フロアブル (対象：紫斑病・タネバエ) 等で種子消毒をします。

「青丸くん」については褐斑粒発生防止のため、ウィルスを媒介するアブラムシを防除してください。アブラムシ類の防除は、土壌施用殺虫剤および本葉第1葉～2葉展開期頃の茎葉散布を行います。種子に「クルーザーFS30」を塗抹処理した場合は、ダイシストン粒剤やジメトエート粒剤などの播種時の土壌施用を省略できます。

(4) 雑草防除・・・丁寧な砕土で除草剤の効果安定化を

ア 土壌処理剤は播種後すぐに散布できるよう作業を組みましょう。

また、土壌が乾いている時は、希釈水量も上限量で均一に散布し、処理層の形成に努めましょう。

イ 砕土が不十分な状態で土壌処理剤を使用すると効果が低下したり、薬害の発生するおそれがあります。砕土を丁寧に行い、土壌処理剤と中耕を適切に組み合わせることが大切です。

ウ 覆土が浅すぎる場合も薬害の生じる場合があります。覆土は2～3cm確保しましょう。

(5) 中耕培土・・・中耕培土で生育の安定化を

中耕培土には次の効果があり、生育を安定化するのに役立ちます。

ア 雑草防除

イ 倒伏防止

ウ 土壌の通気性を良好にし地温を上昇させ根の機能を向上させる

エ 発根を促進し、根群を発達させる

オ 土壌の排水を良好にする

中耕培土の時期は大豆3葉期が一般的ですが、雑草の発生時期に応じて(除草剤の効果がなくなってきたら)、雑草が小さいうちに行うことが重要です。培土の高さはコンバイン収穫の場合はあまり高くしないこと(おおむね1葉節以下)に留意します。また、汚損粒の発生を防ぐため、培土の高さは一定となるようにします。

注意！

■この記事は発行年月日時点の内容のまま公開していますので、ご覧になった時点の法規制(農業使用基準等)等に適合しなくなった内容を含む可能性がありますから、利用にあたってはご注意ください。

農作物技術情報 第3号 野菜

発行日 平成22年 5月27日
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
編集 中央農業改良普及センター 県域普及グループ (電話 0197-68-4435)

携帯電話用 QRコード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
パソコンからは「<http://i-agri.net>」 携帯電話からは「<http://i-agri.net/agri/i/>」

今後2週間程度低温が予想されています。以下に留意して農作物の管理に努めましょう。

- 施設果菜類では、温湿度管理を徹底し、生育に応じた早めの作業で草勢維持に努めましょう。
露地果菜類では、活着を促進し初期生育を良好にするため、土壤水分や地温を確保するとともに、露地きゅうりではポリキャップなどを利用して防風、保温対策に努めましょう。
- 明け方の冷え込みが予想される時は夕方早めにハウスを閉め、必要に応じて補助暖房等を活用しましょう。
- 灌水の必要がある場合、日中の温度が高い時間帯に行い、適湿を保ちましょう。

- ◆ ハウス果菜類 温度管理の徹底と病虫害防除に努めましょう！
- ◆ 露地果菜類 活着促進のため、土壤水分と地温を確保しましょう！
- ◆ 雨よけほうれんそう ハウスの換気に注意して適切なかん水を心がけましょう！
- ◆ 露地葉菜類 害虫の発生状況に応じた早めの防除を！

1 生育概況

- (1) ハウス果菜類は、半促成きゅうり、半促成トマトとも収穫が始まっていますが、低温経過の影響により出荷開始時期が例年より遅れており、半促成きゅうりでは節間が短いほか雌花が多く草勢低下が懸念されます。
また、雨よけ施設を利用したトマト・ミニトマト、ピーマンでは、定植後の保温管理の程度により、ほ場間で生育に差がみられます。
- (2) 簡易雨よけトマト、露地きゅうり、露地ピーマンは例年と同様5月下旬から定植が始まっていますが、育苗期間中の低温経過により、定植が遅れているところもみられます。
- (3) 雨よけほうれんそうの生育はほぼ順調ですが、寒暖の差が大きいこともあり生育が遅れ気味の圃場もみられます。ハウレンソウケナガコナダニによる被害が散見されています。
- (4) 県北部のレタスは4月下旬定植では、結球が始まっていますが、5月定植では、低温の影響で生育の遅れた圃場がみられます。キャベツも全体的に生育が遅れている状況です。
- (5) 露地普通作型のアスパラガスは県北部で収穫が始まっており、立茎栽培では春芽の収穫が間もなく終了します。ねぎは初期生育がやや遅れたものの、1回目の土寄せが行われています。

2 技術対策

(1) 圃場の排水対策とかん水

例年、排水不良が原因と思われる生育不良が見受けられます。水田転作の場合は、水路等の点検

整備を行い、ほ場外からの水の侵入防止に努めるとともに降雨後の排水を促すための明きよを設置します。また、排水不良が十分改善されない場合は、高うね栽培にするなどの対策が必要です。

排水良好なほ場では、かん水を行うことにより生育促進、収量向上、施肥効率の改善などの効果が現れますので、積極的にかん水設備を設置しましょう。なお、電源設備のない露地では、低コストで設置できる自動簡易かん水装置の導入を進めましょう。

(2) ハウス果菜類の管理について

今後6月上旬頃にかけて気温の低い状態が続くと予報されていますので、前号を参照して温度管理の徹底に努めてください。

今後、気温の上昇とともに収穫量が増加してきます。長期安定生産に向けて、追肥やかん水、整枝、誘引などの作業を遅れないように実施し、草勢の維持に努めます。雨よけトマトで盛夏期収穫作業軽減と秋期増収を目的とする、

「主枝更新処理」や「摘花房処理」は、4月下旬定植作型で6月下旬に右図を参考に実施しますが、「主枝更新処理」では処理後の草勢が弱くなる傾向がありますので、処理前から追肥を行うなど草勢維持に留意して下さい。

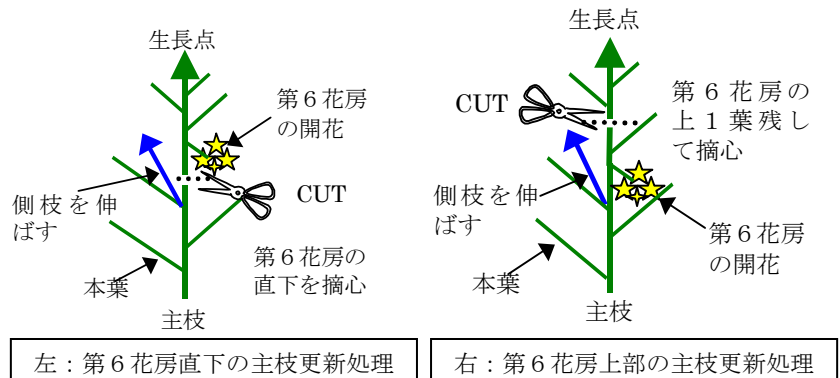


図1 トマトの草勢管理

害虫では、アブラムシ類やスリップス、ハモグリバエ類などの害虫の発生が目立ってきますので、初期防除に努めてください。

病害では、日照不足が続くと、灰色かび病や葉かび病が発生しやすくなります。特に、半促成作型では過繁茂になりやすい時期で、低温時にハウスを密閉すると、湿度が一層高まり、灰色かび病の発生が助長されることから、湿度を上げないように風通しを良くするとともに、予防散布を心掛けてください。

(3) 露地果菜類の定植と定植後の管理

ア きゅうり

生育初期に十分に根群を発達させることが、長期安定生産を実現する重要なポイントです。

初期生育を良好にするためには、土壤水分が適正な状態でマルチを張り、15℃以上の地温を確保してから定植するようにしましょう。

定植作業は晴天日を選んで行い、深植えは避け、根鉢の部分が乾いたら株元にかん水するとともに、天候不順の場合は液肥を薄めて株元に施用するなど活着を促すようにします。また、定植直後の防風、保温対策として、ポリキャップなどの被覆資材の利用が効果的です。

定植後、本葉10枚ころまでに主枝の7節以下の雌花と側枝は早めに除去し、着果させる節位は必ず30cm以上で8～10節からとしますが、節間が短い場合や生長点が小さい場合は、着果させる節位を2～3節上げ、高さ35～40cmまでの雌花や側枝は除去し、草勢の維持を最優先に考えます。最初に利用する側枝1～2本は1節摘心、3～20節前後までの側枝は2節摘心、孫枝

は1節摘心を基本とします。

梅雨時期は、「黒星病」「斑点細菌病」「べと病」を重点とした薬剤を選択し予防に努めますが、最近、一部地域で黒星病対象薬剤の耐性菌が発生している事例がみられますので、薬剤散布の効果が見られない場合は普及センターに相談してください。

イ ピーマン

トンネル栽培では、日中はトンネル内が高温になりやすく、生育障害（葉焼け、落花）が発生しやすいので、被覆資材を開放して換気を行います。有孔フィルムは、最低気温が17℃を超える頃を目安に除去しますが、低温が続く場合は被覆期間を延長します。

露地作型の定植時期は、地域の晩霜限界より5日程遅く設定し、定植1週間前までにマルチを張り地温を十分に上げ活着促進と生育促進を図ります。

整枝は主枝4本仕立てで側枝は放任とします。3本分枝は生育初期に主枝となる枝を4本残して整理するとともに、第1分枝の下部より発生したわき芽は随時かきとります。

誘引は、うねの両側に支柱を立てマイカー線などを高さ50～60cmで水平に1～2段張り、枝が垂れ下がらないようにします。

（4）雨よけほうれんそうの栽培管理

寒暖の差が大きな気象条件が予想されます。換気を十分に行い、ハウス内の気温や湿度が高くなりすぎないように注意します。べと病レース7までの抵抗性を持った品種の作付けが多くなっていますが、抵抗性を打ち破るべと病が発生する可能性もありますので、ハウスの換気を十分行うとともに、適用のある殺菌剤の予防散布を心がけてください。

近年、6月でも高温となることが多く、萎凋病を中心とした土壌病害が早くから発生しています。ハウス内の温度管理には十分注意するとともに、例年土壌病害の発生が多い圃場では、土壌消毒の実施を検討しましょう。

日長が長くなり、ほうれんそうが抽台しやすい条件となりますので、抽台しにくい品種を用いることが基本になります。生育が停滞しないように、播種前の十分なかん水、温度管理を徹底するとともに、乾燥する場合は、生育中（本葉3～4枚以降）かん水も行うようにしましょう。

ホウレンソウケナガコナダニによる被害は全県的に見られています。防除対策として次の点を実践しましょう。

- 春～夏には堆肥の施用を控える。
- 農薬使用基準を遵守しつつ、薬液がムラなく十分かかるように丁寧に散布する。
- 被害の見られた株や残さは必ずハウス外に持ち出し処分する。
- 播種前に、地下5cmの地温が45℃3時間継続するように、ビニール被覆を行う。

（5）露地葉菜類の害虫防除

ア キャベツ

平年に比べてコナガの産卵数は少ない傾向にありますが、幼虫の発生を確認したら早めに防除

を行いましょう。

また、これから定植する作型では、必ず定植時に殺虫剤を施用しまししょう。

ヨトウガのフェロモントラップへの誘殺はまだ見られていませんが、今後の発生予察情報に留意し、適期防除開始に努めましよう。なお、同系統の薬剤の連用とならないように注意して防除しまししょう。

イ レタス

ナモグリバエの被害が多くなる時期です。特に低温で経過すると発生が継続して、生育や収量にも影響を及ぼす可能性がありますので、早めの防除を心がけましよう。防除開始の目安は右図を参照して下さい。

【防除適期の判断方法】（図参照）

最上位葉～1枚目には被害がみられないので、2～4枚目の葉における幼虫の食入痕の有無を観察する。防除適期は幼虫の食入開始初期（図の2、4葉にみられる被害程度）である。



図2 ナモグリバエ幼虫の食入程度

(6) アスパラガスの栽培管理

普通作型のアスパラガスでは、L品の割合が20%を切るようになった頃が収穫終了の目安です。立茎栽培（2期どり栽培）を行う場合には、更に早く春芽（立茎前の萌芽）の収穫を終了します。

春の収穫が終了した後、茎葉が繁茂する前から、斑点病、茎枯病を対象とした殺菌剤を予防散布します。また、倒伏防止用のフラワーネットの利用や雑草防除により、通風や日当たりを良くするように心がけます。

(7) ねぎの栽培管理

定植後1ヶ月程度たってから土寄せ（土入れ）を開始し、その後生育状況を見て追肥、土寄せを行います。乾燥でやや生育が遅れている圃場もありますので、無理な土寄せは行わず、計画的な作業を心がけましよう。

ネギコガの発生は少ない傾向にありますが、今後の発生消長に留意し早めの防除を心がけましよう。

春の農作業安全月間実施中！

農作業 慣れと油断が 落とし穴 初心を忘れず 安全第一

**6月1日～8月31日は
農薬危被害防止運動期間です**

- 近隣住民・周辺環境に配慮しましよう。
- 農薬散布準備、作業中・後の事故に注意しましよう。
- 農薬の保管・管理は適切にしましよう

次号は6月29日（火）発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。発行時点での最新情報に基づき作成しております。発行日を確認のうえ、必ず最新情報をご利用下さい。

注意！

■この記事は発行年月日時点の内容のまま公開していますので、ご覧になった時点の法規制(農薬使用基準等)等に適合しなくなった内容を含む可能性がありますから、利用にあたってはご注意下さい。

農作物技術情報 第3号 花き

発行日 平成22年 5月27日
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
編集 中央農業改良普及センター 県域普及グループ (電話 0197-68-4435)

携帯電話用 QR コード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
パソコンからは「<http://i-agri.net>」 携帯電話からは「<http://i-agri.net/agri/i/>」

今後2週間程度低温が予想されています。以下に留意して農作物の管理に努めましょう。

- 【りんどう】畦間かん水や、生育に応じた追肥により生育の確保に努めましょう。定植は、天候を見ながら早めに計画的に進めましょう。病害虫防除では、葉枯病が多雨により多発しますので予防散布を徹底するとともに、リンドウホソハマキ、ハダニ類の適期防除に努めましょう。
- 【小ぎく】摘心後の整枝を遅れないように行い、圃場の乾燥に留意し、必要に応じてかん水、追肥を行いましょ。病害虫防除では曇天、降雨が続く場合には、特に白さび病の発生に注意しましょう。

- ◆ りんどう 土壌水分管理、雑草防除を適正に行いましょう
- ◆ 小ぎく 定植、整枝などの作業を計画的に行いましょう
- ◆ トルコギキョウ 生育初期の水分・温度管理を適切に行いましょう

1 りんどう

(1) 生育概要

本年は5月前半までの気温が低めに推移し、草丈は短く、遅れぎみの生育となっております。病害虫では、リンドウホソハマキ、ハダニ類やハモグリバエ類の発生がみられますが、例年の比べ発生は遅く少なめとなっております。また、生育が旺盛な時期となり、一部では葉先枯れ症状の発生が見られています。

育苗は、天候不順が続きましたが、生育は概ね順調に進み、5月末から定植が始められる見込みです。

(2) 圃場管理

5月下旬から6月は茎の伸長量が大きく、また花芽の分化の時期となります。水分を多く吸収するとともに、肥料成分も土壌水分があることで吸収されるので、降雨が少ない場合は必ずかん水を行います。ただし、高温時にかん水を行うと根に障害が発生して地上部まで影響を及ぼすことがあるので、夜間または気温の低い日を選んで行いましょう。また、圃場に数日以上の上長期間水をためておくことも避けてください。

ほ場の乾燥は葉先枯れ症状の発生を助長します。発生しやすい圃場では、かん水の徹底と石灰資材の葉面散布で発生を抑えましょう。

圃場内や周辺の雑草はハダニ類やアザミウマ類の繁殖源となるので、放置することのないよう早めに処理します。畦畔の草刈りや通路の除草を早めに行いましょう。除草剤を使用する際には、飛散により、りんどうにかからないように留意し、また、登録や使用方法も確認して使用します。

(3) 施肥管理

基肥としてりんどう専用肥料を用いた場合、追肥施用時期は側芽発生期(葉の付け根に小さく腋芽が見える頃)前です。北上市付近における側芽発生期は早生種で6月上旬、晩生種で6月下旬

旬ですので、この時期までに数回に分けて施用してください。葉色や葉の大きさ、草丈などで判断し、過剰にならないよう留意してください。

(4) 定植

天候を見ながら早めに計画的に作業を進めましょう。堆肥はできるだけ早く施用して碎土し、その後基肥を施用し床作り、マルチ張りを行います。

また、「りんどう定植2年肥料」として、2年目まで肥料成分がゆっくり溶け出す緩効性肥料を使用した定植が行われるようになりました。基本的には2年目の施肥が不要となり、施肥作業の省力化になりますが、土壌条件等によっては、2年目の春に肥料の過不足が見られる場合がありますので、生育状況をよく観察して管理してください。

定植は苗が老化しないうちに早めに実施します。定植作業は苗の萎れを防ぐため曇天、無風時が理想的ですが、晴れた日に行う場合は、トレーが高温にならないように扱い、またトレーから取り出して根が乾燥しないように植えつけ直前にトレーから取り出すように注意します。

表 りんどう定植ほ場施肥量例 (10 a あたり)

施肥例 1	肥料銘柄	資材分量	現物施肥量
	りんどう専用肥料	窒素 15 磷酸 16 加里 15	60～80kg
	苦土重焼燐	く溶性 35% 水溶性 16%	30kg
施肥例 2	肥料銘柄	資材分量	現物施肥量
	りんどう一本勝負	窒素 15 磷酸 10 加里 15	60～80kg
	苦土重焼燐	く溶性 35% 水溶性 16%	40kg
施肥例 3	肥料銘柄	資材分量	現物施肥量
	りんどう定植2年肥料	窒素 15 磷酸 10 加里 10	180～150kg
	苦土重焼燐	く溶性 35% 水溶性 16%	40kg～0kg

苗にジベレリン処理を行った場合は、処理後、早めに（数日以内）定植してください。また、定植後は薄めの液肥、または水をかん注し、床土と苗をなじませます。定植後は活着や初期生育を促進するため乾燥しないように管理します。

(5) 病虫害防除

ア 葉枯病

現在のところ発生は少ないですが、薬剤散布で生育初期からの予防を徹底しましょう。下葉に感染していたものが降雨により順次上位葉に拡大するので、定期的な薬剤散布による拡大防止に努めてください。

イ リンドウホソハマキ

今年は低めの気温経過により羽化は平年並みからやや遅めとなり、防除適期は県中部以南では6月上旬、冷涼地では6月中旬と見込まれます。該当時期の防除の徹底とともに、潜葉痕や茎頂部の食害が見られたならば防除を徹底します。また、発生状況は病虫害防除所の「病虫害防除速報」等を参考にしてください。

ウ ハダニ類

ハウス促成栽培では例年並みの発生が見られています。また、露地でも5月中旬に発生が確認されています。ハダニは高温・乾燥条件で増殖しますので、今後の気象経過に留意するとともに、下位の葉裏の寄生状況を観察し、発生を見たら早めに薬剤散布を行って防除してください。増殖源となる圃場周辺の雑草防除も併せて行います。ダニ剤の使用にあたっては、同一系統剤の年1回使用を徹底して、抵抗性が生じないように十分留意してください。散布時は、十分な散布量で、葉の裏側を洗うように散布すると効果的です。

2 小ぎく

(1) 生育概況

8月咲き品種については、苗の生育遅れと圃場準備の遅れにより、全般的に定植が遅れました。定植後、摘心を終えた後も低温の影響により側枝の伸長が緩慢となり、開花時の草丈不足が懸念される場所です。病虫害では、育苗ハウスでの白さび、べト病の発生、露地ではハモグリバエ類の発生が散見されます。

9月咲き品種の育苗はおおむね順調で、これから、本格的な定植が始まる見込みです。

(2) 定植後の管理

8月咲品種では、草丈不足が心配されますので、初期生育を確保するために水分不足にならないよう注意し、必要に応じてかん水を行いましょ。追肥は一般には不要ですが、伸びが悪い場合、葉色が薄い場合などは少量の追肥（液肥）も効果的です。

摘心後に伸びた側枝は必ず3～4本に整理して品質確保を図ります。この時強い枝から残すのではなく、揃った枝を残すようにします。仕立て本数は品種特性に応じて変更します。

無マルチ栽培の場合は、土寄せを行い生育の促進を図ります。側枝が10cm程度伸びた頃と、整枝を行ったあとの2回が実施時期の目安です。ただし、土寄せにより開花が遅れる場合もあるので留意してください。

(3) 病虫害防除

ア 害虫

アブラムシ類、アザミウマ類、ハダニ類、ハモグリバエ類などが問題となります。発生状況の観察に努め、早期防除に努めます。併せて増殖源となる雑草防除も行います。

イ 白さび病

キク栽培で、特に重要な病害です。定期的な薬剤散布で予防します。新葉の展開に合わせて5～7日間隔で散布することが基本ですが、降雨が続く場合などは散布間隔を狭めます。薬剤の選定は各地域の防除暦等を参考にしてください。



図 小ぎくの白さび病

ウ ウイルス病

ミカンキイロアザミウマ等が媒介する TSWV（トマト黄化えそウイルス）の感染による「キクえそ病」が県内でも確認されていますので、疑いがある場合は普及センターに相談してください。ウイルス以外の要因で類似の症状が発生する場合もあるので、慎重に判断してください。罹病株の抜き捨て、アザミウマ類の防除を徹底し被害拡大を防止しましょう。

キクに発生するわい化病（キクわい化ウイロイド）、キクえそ病（TSWV）に感染した株は回復することがありません。圃場に残すことで他への伝染源となるので、見つけ次第抜き捨てることを徹底してください。

（４） 9月咲き品種

定植期は5月下旬～6月上旬となりますが、丈の伸びやすい品種は遅めに定植するなど品種特性に応じた定植期としてください。県北地域では品種によっては、慣行定植日より10～30日遅らせることで過剰な伸張の抑制と草姿の改善が図られる試験成果が出されていますので、参考にしてください。

現在育苗中のものは高温による障害に注意してください。

3 その他

（１） トルコギキョウ

5月は種で夜冷短日育苗と定植後30日間の短日処理を組み合わせることでロゼット化や短茎開花を回避し、10～11月の出荷が可能となります。本県では8～9月出荷作型に集中する傾向があるので、新たな作型の導入を進め、有利販売を図りましょう。

夏切り作型の定植後の栽培管理は、曇天が続く場合は施設内の遮光資材や内部カーテンを開け、日射量を確保するよう管理しましょう。日照不足は品質低下や場合によってはロゼット化の原因となります。また、施設内の温度にも敏感に反応するので、適温管理に努めましょう。

（２） ユリ類

抑制作型では遮光等により施設内の温度低下を図りますが、品質低下を防ぐために日照をできるだけ確保することと、土壤水分を維持することが求められます。温度上昇を防ぐ遮光資材は、遮光率の高い資材の使用を避け日照確保に努めます。施設の換気に努め、茎の軟弱化を防ぎます。一方で天候が不順な場合は日照を確保するよう遮光資材を開放しましょう。

（３） アルストロメリア

葉芽や枯れ茎は適宜間引きますが、間引きが強すぎるとその後発生する芽が細くなるので注意します。高温期の過剰なかん水や施肥は根の障害を招くことがあるので注意します。かん水を少なくしたい品種もあるので、品種特性に応じた管理とします。

春の農作業安全月間実施中！

急ぐより 家族の笑顔を大切に想う心で ゆとりの仕事

**6月1日～8月31日は
農薬危被害防止運動期間です**

- 近隣住民・周辺環境に配慮しましょう。
- 農薬散布準備、作業中・後の事故に注意しましょう。
- 農薬の保管・管理は適切にしましょう

次号は6月26日（金）発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。発行時点での最新情報に基づき作成しております。発行日を確認のうえ、必ず最新情報をご利用下さい。

注意！

■この記事は発行年月日時点の内容のまま公開していますので、ご覧になった時点の法規制(農業使用基準等)等に適合しなくなった内容を含む可能性がありますから、利用にあたってはご注意ください。

農作物技術情報

第3号

果樹

発行日 平成22年 5月27日
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
編集 中央農業改良普及センター 県域普及グループ (電話 0197-68-4435)

携帯電話用QRコード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
パソコンからは「<http://i-agri.net>」 携帯電話からは「<http://i-agri.net/agri/i/>」

今後2週間程度低温が予想されています。以下に留意して農作物の管理に努めましょう。

- ◆ りんごの開花は平年より遅くなりました！！小玉果が懸念されます、摘果作業を急ぎましょう。
- ◆ ぶどうの生育も平年より遅く、開花期も遅くなると思われます。開花期前後の管理を徹底して、結実確保に努めましょう！！

りんご

1 生育概況

県内の定点観測調査結果(表1)によると、4月中旬以降の低温により生育が遅れ、開花期は平年より6日程度遅くなりました。今後も気温が低い状態となる可能性もありますので、結実確認後、できるだけ早めに摘果作業を進めてください。

開花期が遅れたため、まだ結実状況は判りませんが、開花期間中の5月中旬は前半が気温が低く、後半は高く推移したため(図1)、地域により結実率に差が生じる可能性があります。

また、4月中下旬の低温が原因と推察される、軸の短い中心花や中心花が欠落している花そうが散見されています。生育を確認の上、摘果作業を進めてください。

表1 定点観測地点のふじの開花状況

市町村	地区	開花始(月/日)			満開期(月/日)			落花期(月/日)			開花期の平年・前年差(±日)					
		本年		前年	本年		前年	本年		前年	開花始		満開期		落花期	
		(H22)	平年	(H21)	(H22)	平年	(H21)	(H22)	平年	(H21)	平年差	前年差	平年差	前年差	平年差	前年差
岩手町	一方井	5/18	5/11	5/7	5/20	5/14	5/9	5/23	5/19	5/13	7	11	6	11	4	10
盛岡市	三ツ割	5/15	5/8	5/5	5/18	5/12	5/7	5/23	5/16	5/13	7	10	6	11	7	10
紫波町	長岡	5/11	5/7	5/3	5/17	5/10	5/6	5/22	5/15	5/13	4	8	7	11	7	9
花巻市	中根子	5/11	5/6	5/3	5/16	5/9	5/6	5/21	5/14	5/10	5	8	7	10	7	11
北上市	立花	5/11	5/6	5/3	5/16	5/9	5/6	5/19	5/14	5/10	5	8	7	10	5	9
奥州市	前沢区稲置	5/7	5/3	5/1	5/12	5/6	5/3	5/18	5/11	5/8	4	6	6	9	7	10
	江刺区伊手	5/15	5/8	5/5	5/18	5/13	5/8	5/22	5/17	5/12	7	10	5	10	5	10
一関市	花泉町金沢	5/10	5/6	5/2	5/16	5/9	5/5	5/21	5/13	5/11	4	8	7	11	8	10
	大東町大原	5/13	5/7	5/4	5/17	5/11	5/7	5/21	5/16	5/11	6	9	6	10	5	10
陸前高田市	米崎	5/11	5/4	5/1	5/17	5/9	5/5	5/21	5/14	5/9	7	10	8	12	7	12
宮古市	崎山	5/15	5/7	5/4	5/18	5/12	5/6	5/25	5/17	5/12	8	11	6	12	8	13
岩泉町	乙茂	5/13	5/7	5/4	5/17	5/11	5/7	5/23	5/17	5/11	6	9	6	10	6	12
洋野町	大野	5/18	5/12	5/8	5/20	5/16	5/12	5/25	5/21	5/18	6	10	4	8	4	7
軽米町	高家	5/17	5/10	5/5	5/20	5/14	5/10	5/23	5/19	5/14	7	12	6	10	4	9
二戸市	釜沢	5/11	5/8	5/5	5/17	5/12	5/9	5/21	5/16	5/13	3	6	5	8	5	8
県平均(参考)		5/13	5/7	5/4	5/17	5/11	5/7	5/21	5/15	5/11	5.7	9.1	6.1	10.2	5.9	10.0

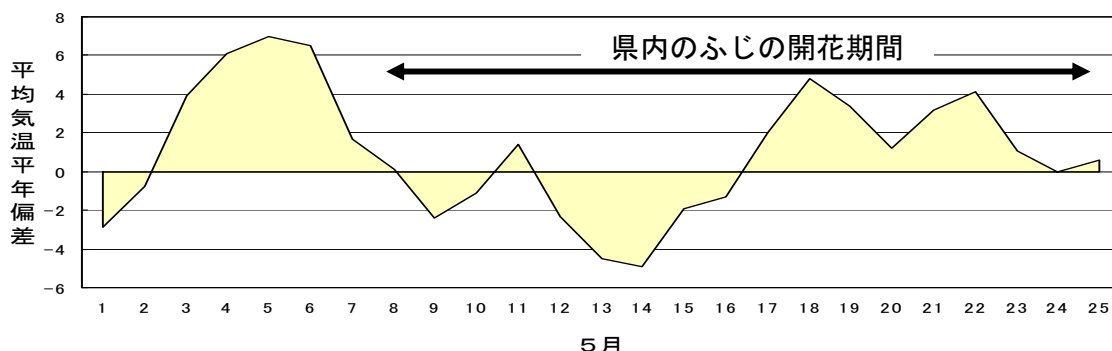


図1 5月の気温の推移（盛岡アメダス観測結果）

2 摘果

(1) 本年は生育の遅れにより小玉果となる可能性があります。また、摘果作業の遅れは隔年結果を招く（翌年の花芽減少）恐れがあります。そこで、あら摘果をできるだけ早めに行い、果実の生育を助けるとともに、翌年の花芽形成を促すことが重要です。各自の品種構成や労力等に応じた作業スケジュールをたて、計画的に摘果作業を進めましょう。

表2 摘果時期が「ふじ」の当年及び翌年の果実品質、花芽率に及ぼす影響（長野果樹試 平12～13年）

摘果時期	当年(平12)			翌年(平13)			
	収量(kg/樹)	平均果重(g)	糖度(%)	花芽率(%)	収量(kg/樹)	平均果重(g)	糖度(%)
あら7+仕60	23.9	348	16.6	75	39.6	327	15.2
あら17+仕60	24.0	311	16.1	59	30.5	305	15.3
あら28+仕60	22.4	309	16.0	44	24.1	303	15.3
あら37+仕60	24.0	311	16.1	28	19.9	318	15.6
あら51+仕60	24.8	269	16.1	20	12.3	299	15.3
仕60	24.9	290	16.4	25	16.6	329	14.9
仕74	23.7	281	16.5	4	3.3	255	14.7
仕94	21.2	280	16.7	2	1.1	297	14.7
対照区(無摘果)	53.4	189	13.8	2	2.6	310	14.8

摘果時期: あら摘果+仕上げ摘果の満開後日数を示す。仕のみは摘果を1回で実施した。

あら摘果: 頂芽の側果およびえき芽果の全果を摘み取った。

仕上げ摘果: 葉果比50～60の基準で摘果した。

翌年(平13)の摘果: 全区ともあら摘果満開30日後、仕上げ摘果満開60日後に実施した。

(2) 摘果の留意点

- ア 最初に、1果そう1果とするあら摘果を実施します。その際、不要な果そうの果実を積極的に除いていきます。その後、果実肥大や品質を確認しながら仕上げ摘果を進めます。
- イ 摘果終了の目安は表3の通りですが、平年より開花期が遅いことから、落花30日後は6月下旬頃になります。作業を計画的に進め、早期摘果を心がけてください。
- ウ 三角実や扁平果など、果形の悪い果実、病虫害果、傷果を中心に摘果していきます。
- エ 果実は横の発育が良く、果硬が太くて長い正形果を残します。
- オ 果台が極端に長いものや短いものは、斜形果の発生割合が高くなるので、できるだけ摘果します。

表3 品種別作業手順

項目	品種	摘果完了時期
早期に行う品種	ふじ、つがる、王林、きおう、さんさ	落花25日後
後期に行う品種	ジョナゴールド、紅玉	落花30～35日後

3 病虫害防除

- (1) 病虫害防除所の発生現況情報（平成 22 年 4 月 27 日発行）によると、ナミハダニがやや多くみられるとともに、腐らん病の発生している園地が目立っています。
ハダニ類は園地内を良く観察し、新梢葉で寄生葉率が 30%に達したら、速やかに防除を行ってください。
腐らん病の発生園地では、病患部を発見しだい、切除、削り取るなど処置を施します。
- (2) 斑点落葉病や褐斑病は、これから梅雨期に入り、感染が増加する時期ですので、天気予報等を参考に降雨前の予防散布に努めましょう。
また、キンモンホソガ、モモシクイガの発生時期が早まる見込みですので、病虫害防除所が発表する情報を参考に、適期防除に努めましょう。
- (3) 交信かく乱剤を導入する園地では、6月上旬までに剤を設置します。その際は、必ずフェロモントラップを設置して、随時交信かく乱効果を確認しましょう。

ぶどう

1 生育概況（表 4）

紫波町赤沢の定点観測によると、「キャンベル」の発芽は5月5日と平年より2日遅く、展葉は5月15日と平年より5日遅くなっています。これは4月中旬以降の低温の影響によるものと思われませんが、凍霜害回避のため設置している雨よけのため、露地よりは遅れていないと考えられます。

これから開花期にかけては管理作業が重なり忙しくなりますので、計画的に作業を進めましょう。

表4 ぶどう(キャンベルアーリー)の生育状況(定点調査地点:紫波町赤沢)

調査年次	生態(月/日)					5月25日	
	発芽期	展葉期	開花期			新梢長 (cm)	節数 (葉数)
			開花始	満開期	落花期		
本年(H22)	5/5	5/15				21.9	4.6
平年	5/3	5/10	6/15	6/18	6/22	25.4	4.9
前年(H21)	4/24	5/3	6/5	6/9	6/14	46.7	7.8
平年差・比	2	5				86%	94%
前年差・比	11	12				47%	59%

2 管理の要点

- (1) 新梢の誘引
展葉7～8枚頃に2回目の芽かき作業に合わせて良く伸びた新梢から誘引します。
- (2) 花穂の整理
ア 「キャンベル」、「ノースレッド」
開花前に弱い枝の花穂は除き、強い枝には2穂を着生させ、全体で目標着房数の1～2割増の着生数とします。
イ 「紅伊豆」、「ハニーブラック」、「安芸クイーン」
最終房数は1新梢1房とします。摘房の時期は、新梢の強弱を判断して強勢のものほど摘房を遅らせ、着色期を目途に最終着房数とします。
- (3) 花振るい防止
ア 「キャンベル」は、強めの新梢を開花7～4日前に房先5～7枚残して摘心します。
イ 大粒種で花振るいが強い品種や園地では、メピコートクロリド液剤（フラスター液剤）を使用することにより花振るいを軽減できます。使用する際は、登録内容を十分に確認し、使用時期や希釈倍率に注意して使用してください。

(4) 花穂の整形 (図1)

- ア 「キャンベル」では、摘心作業と同時に花穂の副穂を切除します。また、主穂が長すぎる場合は、下端を切りつめる(尻止め)などします。
- イ 「紅伊豆」などの大粒種は、1～2輪開花し始めた頃から先端部を切りつめます。「紅伊豆」では、副穂を切除し、主穂の基部から4～6段を切除して10～13段程度を残すように整形します。
- ウ 「サニールージュ」では、開花初期(副穂の開花が始まった頃)に副穂を除去し(長い花穂は上部支梗を1～3段除去)、花穂の長さを概ね7～8cmとします。なお、花穂の先端は切りつめません。

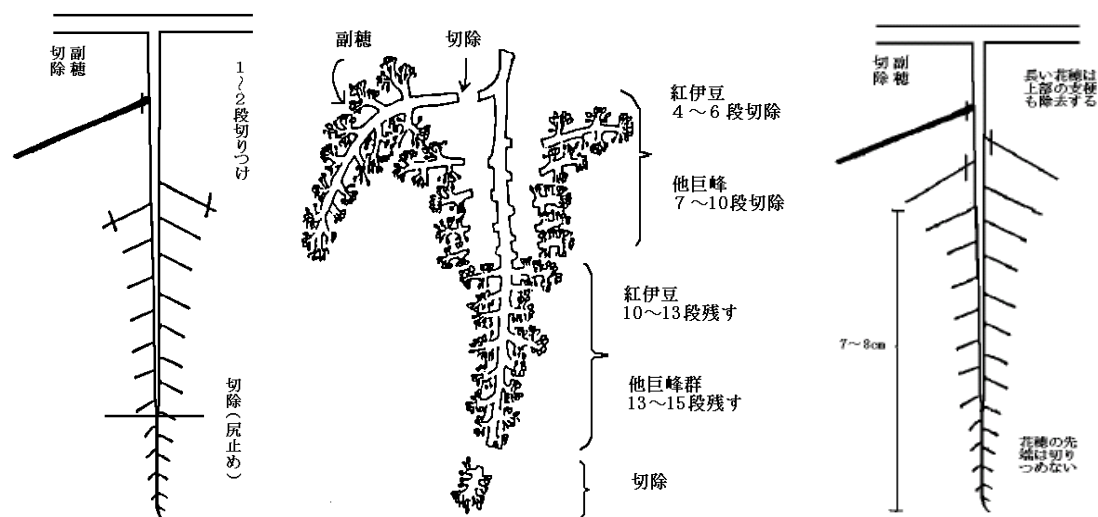


図2 花穂の整形 (左: キャンベル 中: 紅伊豆等大粒種 右: サニールージュ)

(5) ジベレリン処理

「デラウエア」や「アーリースチューベン」は開花前後の2回、ジベレリン処理することで、無核で果粒の肥大した早熟の果房が得られます。

「安芸クイーン」などの「巨峰系4倍体品種」は無核化とともに果粒肥大促進を目的として利用されますが、樹勢が強く花振るいが多い場合、ジベレリン処理により着粒数を増加させることができます。

なお、ジベレリンはグループ毎に目的、使用方法が異なる場合があるので、登録内容を確認して利用ください。

3 病虫害防除

(1) ぶどうの開花期前後は、灰色かび病の発生時期です。生育ステージに合わせて、適期防除に努めましょう。なお、灰色かび病等の薬剤抵抗性回避のため、同一系統薬剤の連用はしないよう注意してください。

(2) 露地栽培で有袋栽培をする場合、防除後、薬剤が乾いたら速やかに袋かけをしましょう。

春の農作業安全月間実施中！

急ぐより 家族の笑顔を大切に想う心で ゆとりの仕事

6月1日～8月31日は
農薬危被害防止運動期間です

- 近隣住民・周辺環境に配慮しましょう。
- 農薬散布準備、作業中・後の事故に注意しましょう。
- 農薬の保管・管理は適切にしましょう

次号は6月26日(金)発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。発行時点での最新情報に基づき作成しております。発行日を確認のうえ、必ず最新情報をご利用下さい。

注意！

■この記事は発行年月日時点の内容のまま公開していますので、ご覧になった時点の法規制(農業使用基準等)等に適合しなくなった内容を含む可能性がありますから、利用にあたってはご注意下さい。

農作物技術情報 第3号 畜産

発行日 平成22年 5月27日
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
編集 中央農業改良普及センター 県域普及グループ (電話 0197-68-4435)

携帯電話用 QR コード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
パソコンからは「<http://i-agri.net>」 携帯電話からは「<http://i-agri.net/agri/i/>」

今後2週間程度低温が予想されています。以下に留意して農作物の管理に努めましょう。

○天候不順時はラップサイレージ主体で効率的な調製をしましょう。

これから一番草の収穫時期に入りますが、今後2週間低温や天候不順が予想されています。天候不順により収穫作業が遅れると牧草の倒伏が始まり収量及び品質も低下します。天気予報に留意し、乾草調製が難しい時はラップサイレージ調製で対応し、なるべく作業が遅れないようにしましょう。

- 牧草 増収を期待した遅刈りは栄養価が低下し、刈取り後の生育に悪影響を及ぼします。適期刈り取りを行うとともに、調製方式に応じた水分含量となるように努めましょう。
- 飼料用 除草剤の生育期処理は適期に行いましょう。
トウモロコシ 強害外来雑草については被害拡大防止のため対策をしましょう。
- 口蹄疫 牛や豚などの偶蹄類の家畜を飼養している農家では、衛生対策を励行しましょう。

1 牧草

(1) 草の生育と作業の状況

今年は消雪が遅かったことから肥料散布作業が遅れました。また4月は気温が低く日照時間も少なく推移しました。これらのことから牧草の生育が遅れていますが、オーチャードグラスの出穂は平年並に始まってきており、1番草の刈り取り作業を開始した圃場もみられます。

(2) 草の収穫適期

図は、オーチャードグラスの1番草の収量と栄養価の推移を示したものです。

1番草は生育が進むにつれ草丈が高くなり、収量と繊維含量が増加します。反対に、出穂始め以降、消化率、可消化養分総量、蛋白質含量が急速に減少します。

1番草の収穫は収量を確保しつつ栄養価が高い時期、すなわち『出穂始めから出穂期』に行うことが適切です。

今年は草丈がやや低い状態で出穂する圃場が多いと思いますが、収穫適期は同じです。刈り遅れないようにしましょう。

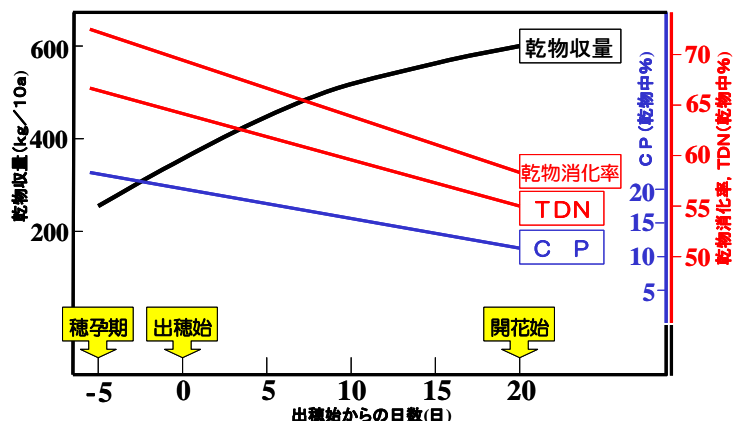


図 1番草収量・栄養価の時的推移(オーチャードグラス)

(3) 牧草の刈取り高さ

牧草の刈取り高さは、再生力の強弱を決定する重要な要因です。

牧草は極端な低刈りでは、生長点が切除されるほか、同化作用を担う緑葉が刈り取られるとともに、貯蔵器官の一部が取り去られ貯蔵養分総量が少なくなるため、再生が悪くなります。

一方、極端な高刈りの場合は収量が減少します。したがって、牧草の刈取り高さは、牧草の再生力と収量確保の両面を考慮して、地際から10cm程度が適当です。

(4) 牧草サイレージの調製

- (ア) 原料草を予乾して適切な水分含量にして調製するのが基本です。予乾せずにサイレージを作ると、排汁により養分が失われます。また、不良発酵（酪酸発酵）の原因にもなります。このため、ロールバールサイレージは水分を50～60%弱に、タワーサイロやバンカーサイロ等では水分を65～70%に調整しましょう。
- (イ) 土砂の混入は不良発酵の原因となりますので、作業スピードを落とし圃場の凹凸に注意しながら収穫作業をしましょう。
- (ウ) ロールバールサイレージに調製する場合、ロール成形後ラッピングまで時間が大幅に経過すると品質は大きく低下します。ロール成形後は直ちにラップし、必ず成形当日にラップ作業を行うようにしましょう（表1）。

表1 密封遅延時間とラップサイレージの品質

試験区	水分 (%)	ph	有機酸組成(%、FM)				VBN/TN	乾物密度 (kg/m ³)
			乳酸	酢酸	プロピオン酸	酪酸		
24時間	63.2	6.1	0.91	0.1	0.08	0.12	13.7	126
12時間	59.6	5	1.82	0.12	0.06	—	7.5	134
2時間	63.8	4.5	1.64	0.11	0.06	—	6	128
1時間	56.5	5	1.08	0.09	0.1	—	5.2	112
梱包直後	55.8	4.8	1.26	0.1	0.09	—	5.2	148

- 1)原料草はイタリアン、エンバク(40%)混播
- 2)5月21日調整(フィルム2階巻、4層)、6月20日開封
- 3)VBN/TN:全窒素中の揮発性窒素化合物の割合(草地試1991)

(5) 乾草の調製

中途半端な水分での梱包はカビの発生を増長し、品質低下を招きます。また、発熱しやすく、自然発火・くん炭化の原因となります。

2～3日快晴が続くと予想される期間に刈り取りましょう。予乾が早く進み水分含量が20%以下にすると、収穫した牧草の呼吸が止まるため、糖、タンパク質、アミノ酸の損失が少なくなり、栄養価の高い乾草ができます。

(6) 刈取り後の追肥

2番草の生育を促すため、刈取り後直ちに追肥を行いましょう。施肥量の目安は、10a当たり成分量で窒素5kg、リン酸2.5kg、カリ5kgです。

2 飼料用トウモロコシ

(1) 除草剤の生育期処理

播種時の土壌処理でうまく除草が出来なかった場合は生育期処理を行います。散布時期はトウモロコシ2～6葉期ですが、農薬毎に違うので使用する農薬の使用方法を必ず確認下さい。また、薬剤において効果がある雑草も違うので圃場の雑草を確認のうえ除草剤を選びます。最近、強害外来雑草（イチビ、ワルナスビ等）がトウモロコシ圃場で急速に拡大しています。発生時期が遅く除草剤散布するタイミングが難しいですが、対策しないと急激に拡大しますので、シャドーやバサグラン等トウモロコシ5～6葉期まで使える除草剤にて防除願います。

3 口蹄疫に対する農場での衛生管理

4月20日に宮崎県で口蹄疫が発生しました。口蹄疫のウイルスは非常に強い感染力を持っているので、牛や豚などの偶蹄類の家畜を飼養されている農家では下記の事項について対策の実施をお願いします。

- [1] 関係者以外の方は農場への立ち入りをなるべく制限しましょう。
- [2] 畜舎内や畜舎周囲の敷地の消毒に努めましょう。
- [3] 家畜の観察は毎日、丁寧に実施しましょう。
- [4] おかしいなと思ったら、すぐに獣医師または最寄りの家畜保健衛生所へ連絡しましょう。

口蹄疫についての詳しい情報は動物衛生研究所のホームページでご確認いただけます。

<http://niah.naro.affrc.go.jp/disease/FMD/index.html>

春の農作業安全月間実施中！

農作業 慣れと油断が 落とし穴 初心を忘れず 安全第一

**6月1日～8月31日は
農薬危被害防止運動期間です**

- 近隣住民・周辺環境に配慮しましょう。
- 農薬散布準備、作業中・後の事故に注意しましょう。
- 農薬の保管・管理は適切にしましょう

次号は6月29日（火）発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。発行時点での最新情報に基づき作成しております。発行日を確認のうえ、必ず最新情報をご利用下さい。